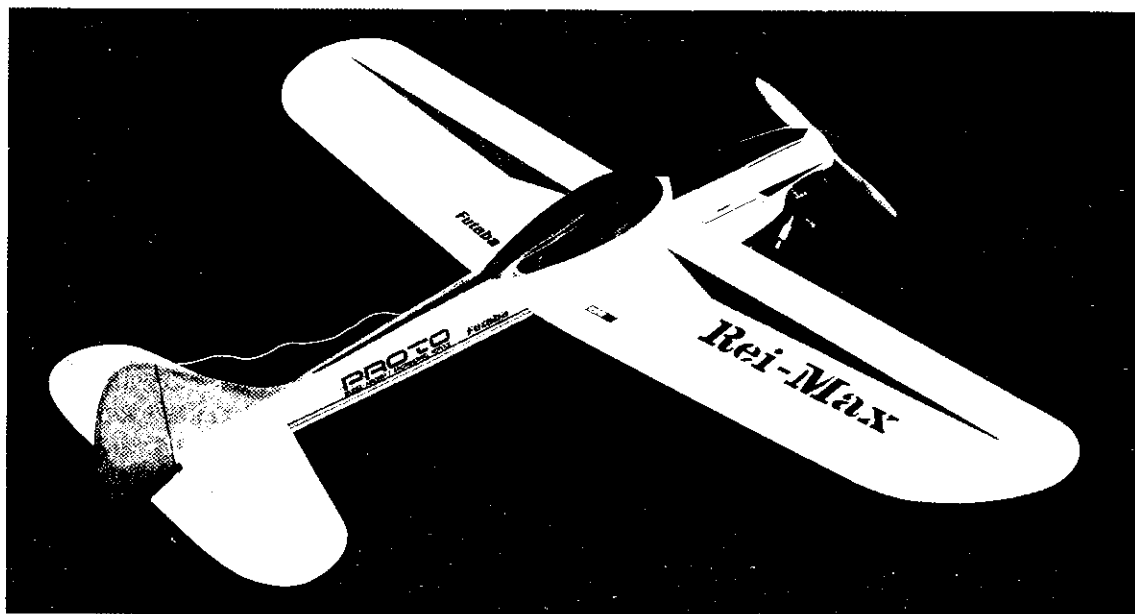


ちょっぴりクラシカルな4 C-30クラス中翼スポーツ機

Rei-Max

高橋 邦夫



フラップ操作による安定した離着陸と機敏な運動性

数々の小型オリジナル・スポーツ機を製作してきた筆者が、中翼機シリーズの第2弾を完成させた。パイロン機風の前作に対して、今回の機体は、全体に丸みを持たせた Rei-Max だ。機敏な運動性に加え、エルロンに2サーボを使用し、フラップとして操作することにより、実に安定した離着陸ぶりを見せてくれた。

昨年の4月号に中翼機の「FUMI Special」(以下FSと表記)を発表しましたが、この機体はパイロン機風の「JEWEL STAR」(99年10月号)を中翼機にアレンジしたものでした。記事の中にも書きましたが、私はこのようなタイプの中翼機を設計するのは初めてだったのですが、このFSには、読者の皆様にも注目していただくことができ、たくさんの方からお問い合わせがあり、まず

まずの手応えを感じました。

そこで、この次は、ちょっとクラシック風な趣のある中翼機を設計してみようと考えて図面を描いてみたのが、今回ここにご紹介する Rei-Max です。本機は、全体に丸みを持たせた外観にしてみたので、胴体にしても主翼にしても、曲線部が多くなっています。

しかし、バルサ・ブロックを使って曲線を出そうとすると重量がかさ

むので、シート・バルサを丸めるようにして曲線を表現しました。そのため内部が広くなり、サーボなどの搭載物を余裕をもってレイアウトすることができました。結果的に、機体は大きさの割りは軽量に仕上がりました。

本機のコンセプトは高速飛行ではありませんので、エンジン・サウンドも楽しめるように、4サイクルのSAITO FA-30Sを搭載しました。このエンジンは、以前には「フレアーミドル」(99年5月号)にも使用したもので、パワー、サウンドともに私の気に入っているエンジンです。目の前をスローでローパスするときの雰囲気は魅力的です。

主翼の製作

まず、はじめにリブから作ります。テーパー翼になっているので、中央

テクニカル・データ

全 幅	1180mm
全 長	1000mm(スピナー含む)
全備重量	1500g
主翼面積	25dm ²
主翼翼型	NACA2412
翼面荷重	60g/dm ²
エンジン	SAITO FA-30S
プロペラ	ヨシオカ10×5.5
RC装置	4 ch 5サーボ (電源4.8V250mAh)